

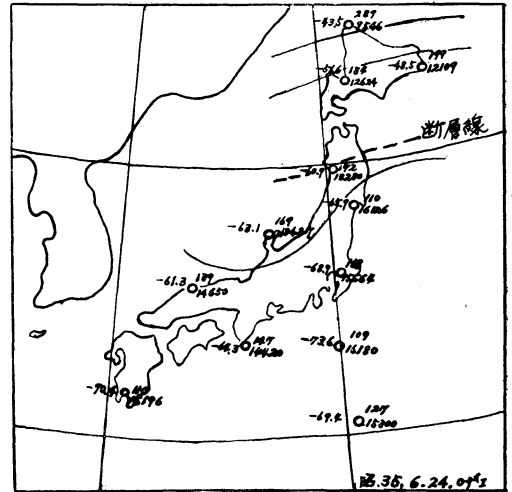
第2図 300mb 高層風

いま一例として昭和35年6月24日に観測された雲について調べてみよう。第1図にこの日の地上天気図をのせ雲の分布状態を地上観測と飛行機観測とを併用して図上に表わした。この日は本州南海上に前線帯があるため、本邦上空には前線性の雲が拡がっており、北日本では上層雲が出ていて雲頂は40000ftにまで達していると報じられた。第2図に300mbの上層気流図を掲げたが津軽海峡付近に100ノットを越えるはっきりした強風帯のあるのがみられ垂直断面図解析からは秋田の上空40000ft付近に風速140ノットに達するジェット・コアがあることがわかる。

第3図には圏界面の気圧・気温・高度を記入した図を掲げた。この図の断層線の位置と上層雲の拡がっている範囲および上層雲の雲頂高度と圏界面高度との関係が第1図と第3図を対応させてみるとわかる。

5. むすび

ここでは飛行機観測による雲の観測資料を集めて主と



第3図 圏界面天気図

して各層の雲の出現高度を調べ応の標準を求めたが、更に雲の予報として特に上層雲の雲頂高度を推定する一つの簡単な方法を実例についてテストしてみた。

参考文献

- 1) 斎藤卓己, 1953: 雲の目測と実測の相違, 研究時報, 第4巻9号。
- 2) S. Petterssen 1956: Weather Analysis and Forecasting. Second Edition Vol. 2.
- 3) 渡多正二, 1954: 新潟における雲高の調査, 研究時報, 第6巻7号
- 4) 富高四郎, 1957: 福岡における雲について, 研究時報, 第9巻7号。
- 5) 米海徹一, 1952: 上層雲と高層気象要素との関係, 気象集誌, 第30巻9号。
- 6) 斎藤将一, 成川二郎, 1954: 上層雲共同観測総合報告, 研究時報, 第6巻8号。
- 7) George S McLean 1957: Cloud Distribution in the Vicinity of Jet Stream. Bul. Amer. Met. Soc., Vol. 38. No. 10.

【新書紹介】 地球の科学

島山久尚, 根本順吉, 諏訪 彰, 半沢正男著

B4版 159頁 株式会社小学館発行 定価450円

最初の約100頁は色別ものの綺麗な絵と説明で、後の約60頁は解説となっている。この本の主眼は最初の色刷にあるらしいが、この方は絵に場所をとられるから内容の方はどうしても不十分となるのは止むを得ない。内容の面白いのは、後の部分で、これは、地球のすがた、ふしぎな自然現象、資源特に地下資源について、自然の災害、

自然現象の予報特に天気予報について、数表、の各項目に分けて説明されている。読者層としてはどの辺をねらったか、はつきりしないが、後の部分を父兄が読んで、説明し、子供は色刷りの部分を見るというねらいかも知れない。「陸海空の現象がそれぞれ関連しあって起こるものであるということ、ときあかそう」として書かれた、とあるが、その点は特に異色があるとも思われない。しかし思いきり美しく作った本で、読者を美しく飾られた博物館にさそって勉強する効果をねらったもので、大人が読んで楽しむ本と云える。